

令和4年度 中央区立月島第一幼稚園 自己評価報告書

学校（園）名：中央区立月島第一幼稚園 所在地：中央区月島4-15-1

校（園）長名：嶺村 法子

児童（生徒）数 121 学級数 6 教員数 8 職員数 19

1 重点目標の達成状況及び取組状況

○令和4年度現在、在籍数121名 回答数118 回収率98%であった。

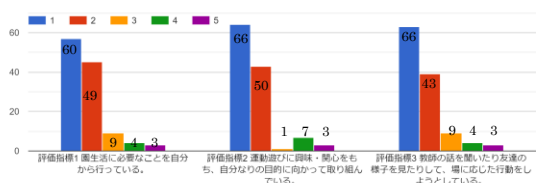
○評価の尺度は1：十分に達成している、2：達成している、3：改善を要する、4：緊急に改善を要する、5：わからない、である。

○今年度より google form での回答となり、評価の誤入力に9名いた。（5を「十分に達成している」と捉えて回答。以下、文章内のパーセンテージは誤入力を正して記入。）

重点目標1

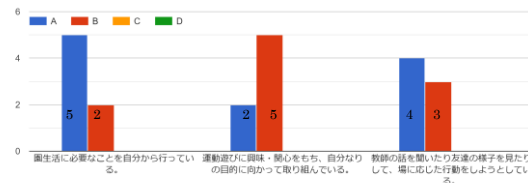
◇保護者評価

重点目標1 自分で考え、進んで行動できるように...きるよう、周囲の状況に気付かせる援助をする。



◆教員評価

1-1 評価指標（成果及び取組の状況）



<達成状況・取組状況>

○評価項目①「基本的生活習慣の定着」について

- ・保護者評価は、1;十分に達成している、2;達成している を合わせて92%、3;改善を要する が9名であった。我が子の姿から、3と答えている保護者もいることから、個々の幼児の成長や頑張って取り組んでいることをより一層丁寧に伝えていく必要がある。
- ・教員の自己評価では、日々の指導の成果が見られ、幼稚園生活の流れの中で必要なことはほとんどの幼児ができていると評価している。一方で、製作物や遊具・道具の整理整頓など、園生活に慣れてきたことにより雑になりがちなこともあるため、一人一人について丁寧に確認し、できることの質を高めていきたい。また、園生活に見通しをもちつつも、夢中になって遊ぶ楽しさを味わえるよう、幼児が自由感をもって生活できる一日の組み立てや発達に応じた活動の提案、表示の仕方に工夫が必要である。

○評価項目②「運動遊びへの意欲」について

- ・保護者評価は、1;十分に達成している、2;達成している を合わせて98%、3;改善を要する が1名、5;わからない が1名であった。本園の運動遊びの取り組みが保護者に伝わった成果と考えられる。今年度より園務支援システム「ルクミー」で写真を取り入れた情報発信を始めたこと、幼稚園公開で幼児の遊ぶ姿を実際に見ることができたことが、高い評価につながったと考えられる。
- ・教員の評価は2が最も多く、意図的に取り組んできた成果は出ているが、発達や興味・関

心に合った遊びの再構成に課題を感じている。幼児の実態を見取りながら、園内環境を活かし、集団遊びや個々の取り組みの中で、様々な動きを経験できるようにしていきたい。

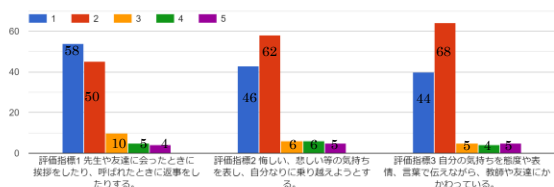
○評価項目③「規範意識の芽生え」について

- ・保護者評価は、1;十分に達成している、2;達成している 合わせて92%、3;改善を要する が9名であった。評価項目①と同様に、我が子の姿から、3と答えている保護者も見られ、教員の自己評価との間にギャップがあるため、よりきめ細やかに指導をしていく必要がある。
- ・「その場にふさわしい行動」についての具体的な姿として、今年度は、集団で話を聞く際の姿を例示したが、集団行動場面だけでなく、様々な場面で、周囲の状況を見ながら自分で判断し行動する力を育むことの大切さが分かるように示し、保護者にも成長が感じられるように指導していく。

重点目標2

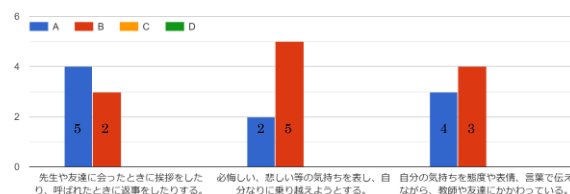
◇保護者評価

重点目標2 多様な感情体験を通して、人と関わる力を育む。 評価項目1
挨拶をする心地よさを感じられるよう、教師が率...分の気持ちを伝えられるよう、精選しをする。



◆教員評価

1-2 評価指標 (成果及び取組の状況)



<達成状況・取組状況>

○評価項目①「あいさつの励行」について

- ・保護者評価は、1;十分に達成している、2;達成している 合わせて91%、3;改善を要する が10名であった。教員は昨年度より高い評価をしており、保護者評価との間にギャップがある。保護者会や学級懇談会で保護者自身が手本となることを伝えてきたことで、意識して挨拶をする保護者は確実に増えているが、引き続き教員がモデルとなって啓発していくことが必要である。

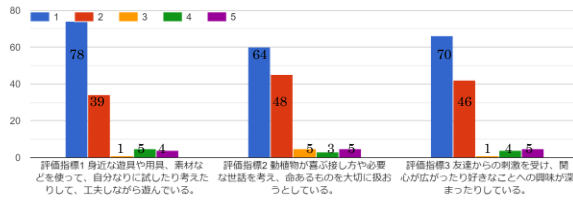
○評価項目②「葛藤する気持ちの調整」、評価項目③「気持ちの伝え合い」について

- ・「葛藤する気持ちの調整」についての保護者評価は、1;十分に達成している、2;達成している 合わせて91%、3;改善を要する、4;緊急に改善を要する が合わせて8名、5;わからない が2名であった。発達に応じて葛藤する内容が変容していくことや、具体的な葛藤場面からその幼児なりにどう乗り越えたかについて、降園時や学級便りを活用して保護者に伝えてきた。一定の成果はあったが、思い通りにいかなかったときに気持ちの調整を図れるよう一人一人に応じた援助をすること、園内でのいざこざに対して、保護者も幼児も納得のいく解決を図ることなどが、今後の課題である。
- ・「気持ちの伝え合い」についての保護者評価は、1、2 合わせて94%である。より一層、発達に応じた橋渡しの仕方を工夫していきたい。

重点目標 3

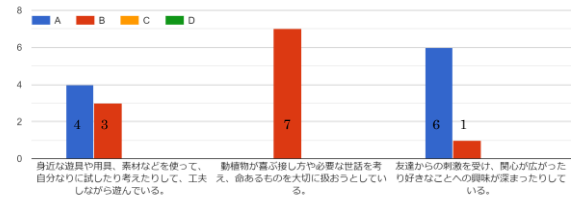
◇保護者評価

重点目標3 好奇心や探求心を引き出し、思考力...友達へのやり方や遊び方に気付かせる援助をする。



◆教員評価

1-3 評価指標 (成果及び取組の状況)



<達成状況・取組状況>

○評価項目①「試行錯誤する楽しさ」評価項目③「集団での切磋琢磨」について

- ・評価項目①「試行錯誤する楽しさ」についてが、重点目標の中で一番保護者評価が高く、保護者評価が1;十分に達成している、2;達成している 合わせて99%、3;改善を要する が1名であった。また、評価項目③「集団での切磋琢磨」については、保護者評価が1、2 合わせて98%、3が1名、5が1名であった。昨年度に引き続き、園内研究「わくわくしながら遊ぶ幼児を育てる～みんなが経験する製作活動と好きな遊びのつながりを生かして～」で製作遊びを充実させてきたことや、幼児が作った製作物を保護者が降園時に見られる機会を設けたこと、ルクミーや学級便り、玄関掲示等で情報発信を続けた成果であると考えられる。

○評価項目②「動植物からの豊かな学び」について

- ・「動植物からの豊かな学び」について、保護者評価は1、2 合わせて94%、3が5名、5が1名であった。教員評価で1の教員がないことから、昨年度に引き続き改善を要する項目である。幼児期の終わりまでに育ててほしい「10の姿」のひとつでもある生命尊重について、教員自らが生き物の命を大切にすることを幼児に見せ、幼児の豊かな学びにつなげていきたい。
- ・月一園での栽培については、昨年度の反省を生かし、教職員が定期的に足を運び、幼児と共に水やりや雑草抜きなどの世話を計画的に行うことができた。食育にもつながるよう、次年度も継続して行っていきたい。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

<達成状況・取組状況>

- ・設問14「併設の小学校や近隣の保育園との連携が積極的に行われている」で、3;改善を要する、5;わからない が13.5%であった。小学校や保育園との交流が年長組中心の活動であることもあり、年少・年中組の保護者に対する発信が不足していたと考えられる。他学年の保護者にも交流の内容が分かるように発信すると共に、年少組・年中組も小学校や保育園との交流を見聞きする機会がもてるように計画する。
- ・設問16「保護者は幼稚園の教育活動に積極的にかかわっている」で、3と5の評価が8.5%であった。昨年度より、公開保育や降園時に保育室を見学する機会を増やしてきたが、引き続き、保護者が幼稚園の教育活動に協力している、幼稚園と協働している、という意識がもてるように、折に触れ、様々な働きかけをしていきたい。

3 今後の改善方策

<重点目標Ⅰに対して>

- ・3年間で身に付けさせたい基本的な生活習慣について、学年毎に【技術・技能】に焦点をあてたチェック項目を作成し、確実に身に付けさせることができるよう、指導を積み重ねていく。
- ・園内での生活習慣について、教職員が学年毎の目指す姿と指導方法について共通理解し、きめ細やかな指導ができるようにする。

<重点目標Ⅱに対して>

- ・朝や帰りの挨拶、食前食後の挨拶等、教師が手本となり、保護者にも協力を求めながら、気持ちを込めて丁寧に行っていく。気持ちのよい挨拶で一日をスタートさせ、挨拶を交わす心地よさを味わうことを通して、自分から挨拶ができる幼児を育て、その姿を保護者に発信していく。
- ・各学年の発達段階に応じた葛藤する気持ちの調整や気持ちの伝え方について、学級懇談会や学級・学年便りなどで具体的に保護者に発信していく。個々の幼児の育ちや課題についても降園時を活用して個別に伝え、共有する。

<重点目標Ⅲに対して>

- ・全教職員で教材研究を継続して行い、その学年にふさわしい教材を提示することで、一人一人が試行錯誤する楽しさを味わえるよう援助する。また、園内研究の内容と成果について、今年度同様に保護者に発信すると共に、降園時を活用して保護者が幼児の作品を参観できる機会を増やし、作品を通して我が子の成長を実感できるように説明する。
- ・幼稚園で飼育・栽培をする意味を問い直し、幼児に経験させたい内容にふさわしい飼育・栽培物を選択する。その上で、教師が生命に対する畏敬の念をもち、慈しみ育てる姿を見せることが、幼児にとって何よりも大切な環境であることを自覚し、自然の不思議や命の尊さに気付くよう、幼児と共に、飼育活動、栽培活動を進めていく。

<Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ共通>

- ・重点目標に掲げている指導内容と各学年の幼児の姿について、園だより、学級・学年便り、降園時の話、HOIKU トークデー、ルクミー等の様々な機会を活用して保護者に発信し、幼児の育ちを共有し喜び合えるようにすることで、親子の成長を支える。
- ・保護者や地域、保育所や小学校等に教育成果を発信し、本園の応援団を増やししながら、教育活動の充実を図る。

<重点目標以外の評価に対して>

- ・保護者一人一人とのコミュニケーションを大切にしながら信頼関係を築き、安心して預けられる園、相談しやすい園を目指し、子育ての支援につなげる。
- ・未就園児の保護者が知りたい情報にアクセスできるように発信方法や未就園児の会の内容を工夫し、区立幼稚園の教育に対する関心を高め、理解を深める共に、いつでも相談できる地域のセンター的役割を果たす。